

決議第1号

米軍普天間飛行場の佐賀空港移設に反対する決議

鳩山内閣は米軍普天間飛行場の移設問題に関し、この5月中に政府方針を固めることとしている。

去る11月17日の衆議院安全保障委員会では、かつて米外交官が佐賀空港を普天間飛行場の移転先候補として発言したことを引き合いに、佐賀空港を実名で例示して質問に取り上げられた経過や、本年1月19日には政府与党の照屋寛徳衆議院議員が佐賀空港を視察し「ベストロケーション」と発言して帰るなど、地元にとっては寝耳に水の動きがある。

もとより米軍基地の沖縄一極集中によって沖縄県民の犠牲は計り知れないものがあり、政府の防衛政策の見直しは必然の課題として、政府はその解消に当たる必要がある。

しかし、だからと言って移転先の選定にあたって地元の意向を踏まえることもなく政府や国会の一存で決定されるべきものでもなく、地元の空港整備の経緯や土地利用計画を含めた整合性を抜きに俎上に乗せられることは民主国家としてもあるべき姿ではない。

もとより佐賀空港の整備にあたっては、自衛隊との共用すら想定しない前提で建設されたものであり、実戦部隊である米海兵隊の空軍基地化を容認できるはずもない。

われわれ鹿島市議会は、我が国の重要な食料基地としての佐賀平野と有明海の産業振興を守ると共に、有明海沿岸住民の平穏と安全を破壊する佐賀空港の米軍普天間基地移設先候補としての議論を断じて許容することはできない。

よって政府におかれては地元の係る不安と不信を一掃されるよう強く求めると共に、我々の強い決意を表明するものである。

以上決議する。

平成22年3月26日

鹿 島 市 議 会